

2024（令和6）年度 第1回伊賀市総合教育会議 議事概要

日時 2024（令和6）年7月9日（火） 午前9時50分から
場所 伊賀市役所 4階 庁議室
出席者 岡本市長、宮崎副市長、谷口教育長、内藤教育委員、岡森教育委員、中教育委員、野口教育委員、風隼企画振興部長、中矢企画振興部次長兼総合政策課長、馬場美術博物館建設準備室長、奥沢総合政策課主幹、川部教育員会事務局長、東教育委員会事務局次長、西口学校教育課長、笠井文化財課長、森口教育総務課長、藤岡教育総務課政策係長、若林教育総務課主任、藤山教育総務課主任

議題

協議事項

- (1) 伊賀市まちづくりアンケート調査結果について
- (2) 伊賀市美術博物館基本構想について
- (3) 小中学校における手話授業について
- (4) 小中学校における読書活動の推進について

報告事項

- (1) 伊賀市教育大綱の策定について
- (2) 伊賀市子育て支援について
- (3) 不登校児童生徒の状況について

【事務局】それでは皆さんお揃いとなりましたので、ただいまより2024年度第1回伊賀市総合教育会議を始めさせていただきます。皆さまには、ご多忙のところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日の資料につきましては、教育委員以外の方は、デスクトップにあるオフィス公開キャビネットの教育総務課のフォルダーの中に第1回総合教育会議のファイルがありますので、それを開いていただければ資料をご覧いただくことができます。教育委員の皆様は、タブレットに資料を掲載させていただいておりますのでファイルを開いていただければご覧いただくことができます。

次に会議の公開についてご説明いたします。伊賀市総合教育会議運営要綱第5条により、会議は原則、公開となっておりますので、本日の会議を傍聴される方や報道関係者等について、ご了解、ご理解をお願いいたします。あわせて、議事概要作成のための録音と議事概要の公開につきましても、ご了解いただきますようよろしくお願いいたします。

本日、ご出席いただいております皆様につきましては、資料の名簿のとおりとなっております。事項に入る前に、7月1日より新しくご就任いただきました教育委員をご紹介します。岡森史枝教育委員でございます。

【岡森委員】皆さん、おはようございます。このお話をお受けさせていただき、昨日まで課題図書の間い合わせが急に増えてきまして、地域の書店としまして、地域の子どものために何か必要としていただいているのであれば、精一杯、お努めさせていただきたいと思っております。

のでどうぞよろしく申し上げます。

【事務局】ありがとうございました。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは事項書に沿って進めさせていただきます。

事項1のあいさつについて、岡本市長と谷口教育長からいただきたいと思ひます。はじめに岡本市長からお願ひいたします。

【市長】改めましておはようございます。今日は今年度第1回目の総合教育会議ということで、新任の教育委員さんにも加わっていただひて進めてまいりたいと思ひます。今年は大変暑いと言われていまして、6月21日に梅雨入りとなり、平年より15日、昨年より23日遅く、過去4番目に遅いものとなりました。短い梅雨の期間になるようですが、梅雨はどんぶり勘定といわれていましますので出水期に備えていろいろなことを用意しとかなひといけなひと思ひているところでは。子どもたちにとっては、熱中症というものが大きな注意事項の一つと思ひています。

伊賀市のまちづくりについては、第2次伊賀市総合計画第3次基本計画を指針として取り組んできたところでは。この計画の最終年度として、引き続き「こども、くらし、にぎわひ」を中心にして、「誇れる伊賀市」「選ばれる伊賀市」の実現に向けて着実に昇って行けるよう考えています。

子ども・子育て施策の更なる充実として、子育て世帯の負担軽減と家計の底上げとして、昨年4月からの小中学校の給食費の無償化に加え、今年からは幼稚園・保育所・保育園の副食費を無償にすること、子どもの個性を大切にする学力の保障や伊賀らしい郷土教育の推進として、キャリア教育を推進、学力向上を目指し中学3年生での実用英語検定の受験、外国人住民がついに7%になりましたので、外国人児童生徒が日本漢字能力検定へ挑戦できるよう受験料の負担など、取り組んでいるところでは。表現が適切かどうかわかりませんが、隠れ教育費という言葉が最近言われていますが、そうしたことに何らかの対応ができるよう考えていまきたいと思ひているところであります。

この総合教育会議では、伊賀市の宝である子ども達がより良い環境で学べるように、教育を行うための諸条件の整備や地域の実情に応じた教育、学術や文化の振興について協議と調整を教育委員会との間で行うものでは、皆さんの忌憚のないご意見を頂戴したいと思ひています。

岡森教育委員には、7月から新たにご就任いただいたところでは、今後ともよろしくお願ひいます。

本日は、大きく4つのテーマで意見交換をお願ひしたいと思ひています。伊賀市まちづくりアンケートの調査結果や美術博物館の基本構想、小中学校における手話授業や読書活動について、様々な角度からご意見をいただければと考えています。

限られた時間ではございますけれども、最後までどうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局】ありがとうございました。続いて谷口教育長からご挨拶をお願ひいます。

【教育長】総合教育会議にあたり、市長、副市長、教育委員の方々と関係部局の皆さんに集まっただきありがとうございます。この会議は市長部局と教育委員会とが様々な施策につい

懇談するという事で、より良い教育行政を行うための会議でございます。これまで学校を見に行っていたり、例えば小学校の英語教育とか、GIGAスクール、幼稚園も見に行ったり、実際に教育の参観もしていただきました。給食センターが完成した時には試食をしていただきまして、食育についてもお話しをしたり、様々な協議をしてまいりました。私自身が思わせていただくのは、いろいろな形で支援をいただいているということが本当にうれしく思っています。今も話がありましたように、特に保護者の方から好評である給食費の無償化については、保護者の方がいろいろな会議でよかったとおっしゃっていただいていますし、英検も支援いただいております。施設の面では、ほとんどの教室にエアコンが入っていますのでこの暑さにも対応ができます。大規模改修もこれまであまり進められていなかったのですがこれも進めていただきました。授業もタブレットを入れて大きく変わってきましたし、今年度は校務支援システムも入れていただいて、教職員の働き方についても新たに導入いただくことで来年度から本格稼働になりますが、そういうことも含めまして様々な形で学校教育やそのほかの教育についてもいろいろと支援をいただいています。また、念願の市の図書館の完成も見えてきましたので、これもいろいろな形で早く実現していきたいと思っています。いろいろな中でみますと不登校の子どもが多いとか、読書活動の推進についても、これまで保護者や家庭に呼び掛けてきましたがなかなか進まなかったのが昨年度から学校でいろいろ取り組んで家庭に影響していこうと思っていますので、今日も協議をしていただいて、ご意見をいただければと思っていますのでよろしくお願ひします。

【事務局】ありがとうございました。本日は、協議事項として4つのテーマと報告事項として3つのテーマで進めさせていただきますのでよろしくお願ひします。

限られた時間ですので、議事の進行にご協力いただきますようお願いいたします。

それでは協議事項の1つ目「伊賀市まちづくりアンケート調査結果について」を企画振興部総合政策課から説明をお願いします。

【総合政策課長】 資料に基づいて説明

【事務局】ありがとうございました。説明いただきましたまちづくりアンケート結果について皆様方からご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

【教育長】この結果を見ていつも思うのは、学校教育を含めてあまりいいところが無いのでどうかと思っていましたが、保護者アンケートで教育委員会の指標として各学校が「保護者の話を聞いて学校改善をしているか」とあげると、ほぼ90%ぐらいは、「そのとおりである」、「ややそのとおりである」と肯定的な評価を得て非常にいいのですが、このまちづくりアンケートを見ると悪かったのが年代別で学校のことが分からないから「こうかなあ」と書くこともあって、なかなか上がってこない中でどう上げていくか、学校教育だけでいうと難しい面があります。年代別の説明をいただいたので、そういう部分があつて差があるのかと思いました。教育

環境について、どう参画するかといった時にいろいろな関わりも持ってくれている人は、「している」と書くのですが、関わりを持たない人は、分からないので「この程度かなあ」と書いてしまうところがあるのではとったりしています。これをどう上げていけばいいのか、何とかしていきたいと思っています。少し疑問に思っていたところも年代別のことを教えてもらってそういうことであつたのかとわかりました。

【市長】アンケートをしてどうですかとよく聞きますが、それは行政にしても教育委員会にしても、当然我々のやっていることは知っているという想定のもとに、アンケートを出したりするのですが、実は、世の中の人には行政や教育委員会がやっていることを本当に知っているのかというと、たぶん知らないと思っています。例えば給食の無償化にしても、小中学校の給食の無償化、幼稚園保育所も給食の無償化をしましたがけれども、当初からいろいろな声が聞こえる中で「給食の無償化についてどこでもやっています」という保護者がいたり、あるいは小中通してやっているのは少ないという事実が認識されているのか、そういうことはないと思います。学校のことについても、教育委員会、先生方が思うほど世の中にやっていることが伝わっていない、つまり、大事なことは広報活動が大事なことであって、我々はいろいろな施策を考えて、出来たと言って終わってしまうのですが、本当はそれを皆さんに広く知っていただいて、使っていただいて、反応を伺って、もう一度回していく、そういうサイクルを動かす、このやり方が大事で、知らしめる、知ってもらうという部分がなかなか我々が十分に出来ていない部分であつて、それがギャップの原因だと思います。

【内藤委員】満足の方と不満足の方と、どういった理由でそう思われているのかという項目があつて、重視した項目として説明いただきましたが、例えば子育て少子化対策でその他のところで不満足の方が多いのですがそれぞれの声を伺っていますか。

【総合政策課長】総合計画でさらに深掘していこうとするとまちづくりアンケートで全ての項目で何が不満であつたかを聞いていくこととなつて、たくさん設問になりますのでそこについては子育ての取り組みのアンケートを取っていく中でしっかりと聞いてくださいと各部局に投げかけていきたいと思っています。総合計画の中でメニューとしてあげているような子育て相談、子育て支援、少子化対策の三本柱以外のことに何か思いを持って不満と答えた人が多いところまでは投げられると思っています。

【内藤委員】そもそも三本柱が的を得ているのかということですね。もう一つ聞かせていただきたいのは、例えばまちの魅力、学校教育、学校環境にはどうしても誤差的なことが起こるといふ話がありましたがこれは地域別にもデータは出ているのですか。地域によってばらつきはかなりありますか。

【総合政策課長】施策によってはばらつきが出ているものもあります。アンケートを取った時は39の自治協のどこに住んでいますかと聞いていますが、そうなると回答者がすごく少なくなりますので一人が肯定的か否定的かでかなり揺れてしまいます。そういった見方で見ると毎年と比較がデコボコになってしまうので、旧市町村単位とか、街中か町村部かとかでみていくことがいいと思います。例えば交通でも、街中の人の方が高いのかと思いきや青山の方が高くなっています。おそらく近鉄が走っているとか、居住地がある程度集約化されていたりするの

で満足と思っている人が多いかも知りません。具体的な理由まではわかりませんが青山が高い傾向にあるとか、中心市街地活性化についても、街中が突出して高いわけでもなく、青山や阿山の人が高い傾向も出ています。

【内藤委員】満足と参画の二本柱ですが、参画しないのか、参画できないのか、という問題もあると思いますので、このアンケートを多角的に見ないと原因が十分に見いだせない感じがしました。

【総合政策課長】自分の時間が取れていますかという設問についても、働き盛りの30代、40代、50代の方は自分の時間や家族との時間が取れていないと答えているので、そもそもまちづくりに参画することがその世代には難しいと読み取れると思います。総じて参画度は、30代、40代、50代はほとんど低くなる、どの施策でもそういった傾向にあります。

【内藤委員】参画もしてほしいけれども、その世代の働き方そのものにも問題があるということですね。

【中委員】5,000人にアンケートを取っているということですが、どんな形でピックアップをしていますか。

【総合政策課長】完全に無作為で抽出しています。

【中委員】偏りが出るということは無いですか。

【総合政策課長】偏りが無いようにしています。どうしても世代によっては偏りが出かも知りませんが出ないようにしています。

【中委員】990人がせめて2,000人ぐらいは返してほしいと思います。よく先着何人に図書カードをあげますという結構増えたりしますが、そこまではする必要はないと思います。先ほどの話で広報活動が大事と感じました。市民は市がすることはやって当然と思っているところがあると思います。そこが満足度のところにやってもらったというところにつながっていないと思います。教育委員会でやっている英検でも保護者の中でやってくれてありがたいと思っている保護者となんでこんな面倒くさいことをやってくれてと思う保護者と大きく分かれています。その中でもやってくれてうれしい、子どもたちも頑張っって英語の勉強ができると思ってくれるような広報活動が大事だと感じさせてもらいました。学校の中でも子どもたちが一緒に頑張っって英検を受けようという環境ではないのは広報活動が足りないのではと感じました。そこへ先生方に頑張っってもらって広報活動、市が頑張っっていろいろなところで広報活動を頑張ってもらいたいと思います。9月に英検があるので学校が夏休みに入る中で子どもたちが夏休みの間に英検を頑張ろうとなるように、休みが始まるまでに広報活動を頑張っしてほしいと思います。

【教育長】そのとおりで英検も今まででしたら中2、中3ぐらいでどの級を受けるかということを書いていましたが、中学校の入学説明会で中3の時には3級を取れるようにしよう、ということを書いていくと、1年生で4級を受けようということになるので入学説明会から説明をしていこうと方向を変えて、早く説明していくこととしています。

【中委員】3級といっても中学2年生の内容が中心となってきますので、3年生になって4級が受けられないとか、5級も受けられないとか、学校として恥ずかしいと思ってもらいたいの

で、子どもたちが嫌だというのではなく、やろうという気持ちになるような広報活動が必要と思います。そうすれば子どもたちの満足度とか保護者の満足度へも繋がるのではと思います。いろいろなきっかけが必要であって、ひとつひとつのきっかけが大事だと、アンケートを見て感じました。

【学校教育課長】今、各学校でどの級を受験するか確認をしているところで、基本的には特別支援の子どもにはそれに合った級を受けてもらいますが、それ以外の子どもは力を見ながらできるだけ3級を受験するように学校からも働きかけをするようにしています。この取り組みが始まる前から英検の取り組みを学校でやっていたところは子どもたちの意識もある程度何回か分けてという意識も高いのですが、この時だけ受けているとなかなか子どもの意識も高くなってこないで、そのあたりも学校へ英検の取り組みを1年通してできるように先生方に協力を依頼していく必要があるのではと思っています。

【中委員】今年、各学校に聞かせてもらったら、今ちょうど子どもたちが英検の申し込み用紙をもらったと聞いているので、昨年度は夏休みが始まった時だったので、今回みたいに夏休み前であれば、休みに入ってやろうという気持ちになるので良かったと思います。

【岡森委員】英検の話で、書店の現場にいますと数年前に比べて遥かに中学生が準2級を受けるためにテキストを求める人がすごく増えてきたと思います。3級は皆さん割と取れているのかと思いながら、「2級や偉いね」と声もかけながら、そんなお話ができているのも、皆さんがとても努力をしてくださっているものだと思います。

【野口委員】先ほどから言っていた周知関係のことですが、このアンケートも踏まえて各部局がいろいろな施策を考えて実施しているということですが、市民の意見としてこのアンケートの結果、こういうものがあって、それに対してこういう施策を行ったというその実績、市民の意見が反映されて、市のこういった施策が行われたという周知はされていないのですか。

【総合政策課長】以前までのアンケートですと自分のところの施策の満足度が上がった、下がったということと、他と比べてどうなのかということは見ることはできましたが、どうしてかということまではこのアンケートではわかりませんので、どうしてかは自分のところで取ってくださいというのがこのまちづくりアンケートのやり方でした。このまちづくりアンケートの中でも満足度を判断する際に重視した項目の質問を今年から設けましたので、この結果を次にどうしていくかが課題と思っています。

【野口委員】課題を見つけて、それに対して実行して、その結果を報告するまでを一段階ということですね。英検の話になりますが、受験で英検を持っているだけで英語の教科が免除されたり、基準点に足りなくても上げてくれたりとかが当たり前になっているらしくて、必ず持っていた方がいいと、昔と比べて英検の位置付けが変わっているのでたくさん推進していただいて、みんなが受験できる形がいいと思います。

【市長】昔、「私の声が入っている」という商品を作ったというコマーシャルがあって、行政でも「私が、僕が言ったことが政策になってできている」という実感があると満足度というか関心度というか、そういったのが高まっていくのかと思います。どういうふうになればいいの

かわかりませんが、例えば広報の中に「これまではやってきたことの中でこういう政策がありました。これは皆さんからいただいた意見によってできました」といったことが付記されるようなことがあれば、市民が必然に市政に対する関心度が高まっていくし、参画意識も高まっていくのではと思います。我々はまじめに意見を聴いてまじめに活かしてつくるのですが、市民にとったら私たちが思っていたこと、考えていたこと、言っていたことが本当に活かされているのかという実感がないと思います。私が市民としても思います。

【中委員】アンケートに答えさせてもらったのですが、その時に感じたのが、これを書いて意味があるのかな、アンケート出して意味があるのかなと思いました。アンケートを書くことによって何か活きるのか、時間を使って入力して、生きていくのかということが感じられれば増えていくのではと思いますし、アンケートを受けてこういうことが動きましたよということを市民が見ることができれば大きくアンケートに答える方も増えると思います。

【市長】e モニターとか各世代にいろいろな意見をまんべんなく、若い人から高齢の人、働いている人、お母さん、学生から意見をいただこうとしていますが、いろいろな人の中には、市民との対話をしなさいと言われます。実は、対話を昔一生懸命したことがあります。出てこられる人の年代層は決まっています、同じことを言われます。今の話でいうと自分は市政に対してものを言ったとか、行政と向き合ったとかいう実感が残るということで参画意識に意義があると思いますが、そのあたりの兼ね合いが興味深いことと思いました。

【事務局長】県の広聴の仕組みの中には、アンケートなどを取った後でアンケートの結果がこういう施策に活かされたという報告をホームページに公開してしまっていて、こういうことをしていかないといけないと私たちも思っていたところです。

【副市長】アンケートに答えていただいたと聞かせていただきましたが、時間もかかりますし、結構大変ではなかったですか。

【中委員】それが生きていくということになると、力が入ったかもわかりませんが、私として強く書いたのは公共交通のところ、田舎に住んでいるのでとても子どもたちもお年寄りも不便に感じているところがあるからです。この前も子どもたちから意見が出たのは、新しい図書館ができるけど、どうやって行くという話を聞いた時に、自転車では行けないし、何とかしてよと言われたときに、家にお父さんやお母さんがいてくれたら行けるけれども、バスで行っても帰るのにバスが無いという話を聞いて、公共交通のところを書かせていただきました。あとは、子どもたちの教育のことに強く望むところと、災害で学校が避難場所になるということで最近梅雨でも雨が降らないのでたくさん降った時とか、台風が来たり、ゲリラ豪雨があるので避難しないといけない時に学校施設が避難できる場所になっているのか感じました。施設の不安を感じているところが多いと思いました。

【学校教育課長】学校でも児童会活動とか生徒会活動で子どもたちの意見を聴いて、行事とかに子どもたちの意見を入れながら、自分たちで言ったことが反映されていく体験を学校でも積めるように考えてやっていますので、それが大人になった時にも社会に出ていくときに生きていければいいと思います。

【事務局】ありがとうございます。続いて2つ目の項目「伊賀市美術博物館基本構想について」を企画振興部美術博物館建設準備室から説明をお願いします。

【美術博物館建設準備室長】 資料に基づいて説明

【事務局】ありがとうございました。説明いただいた美術博物館の基本構想定について皆様からご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

【教育長】ワークショップの問い合わせは結構あるのですか。できるだけ生徒や先生にも参加していただきたいと思っているのですが。

【美術博物館建設準備室長】募集は明日からになります。電話での問い合わせは何回かあります。

【市長】どういう人たちですか。年代層は。

【美術博物館建設準備室長】年代層は50代、60代です。若い人だけというのもダメなのですが、若い人にも参加してもらいたいということで、今、市役所の1階に高校生の美術作品を飾っていますが、その作品を取りに行ったときに美術の顧問の先生にもお声掛けをお願いしています。

【市長】美術博物館は、美術部門だけではなく、市民みんなの社会教育なので各階層の人たちに参画していただければいいと思います。

【野口委員】位置としては、桃青中学校跡が最有力候補ですか。

【美術博物館建設準備室長】今、最有力候補で、次の基本計画の委員会で検討するのが7月末になりますので、そこで場所を決められればと思っています。

【野口委員】桃青中の卒業生として、アクセスするのは坂道を上がっていくこともありますし、何かエスカレーターとかは考えていますか。

【美術博物館建設準備室長】基本的には市内の人であれば、幼稚園の側に駐車場があって、裏からの進入になりますが、そういう形で駐車場を確保して市内の人であれば車で来ていただくようなことを考えています。観光客とかであれば、桃青の坂は急ですが上野城への坂も急ですので、上野城に行ってまた戻って登るのかという話もあります。

【市長】昔、赤い橋が架かっていましたという話がありました。

【野口委員】その話がすごく出ます。ここになるのであれば橋をかけられないのかと。

【市長】そこに文化財価値がありますのでどう反応するかわかりませんが、現代の工法と文化財を活用しなさいという、従前と違う文化庁の方針を見れば従前のような保存しないといけないうことではないと思うので、やろうと思ってやらないと成果は来ないので、やるならやっていくということで頑張ってもらえるとと思っています。アクセスとか委員会の方で結論を出していくと思うので、期待をしたいと思っています。

【中委員】素敵な建物を建ててもらいたいので多額の費用が掛かるとは思いますが、財源は大丈夫なのでしょうか。

【美術博物館建設準備室長】財源は、美術館とかを建てていくときの補助金はあまりありませんが、ゼロではないのでそういった補助金をもらえるように要望はしていきたいと考えています。完全に市単となるとかなりの負担になります。

【市長】使えるのは社総金でしたか。

【美術博物館建設準備室長】国交省の補助金で社会資本整備総合交付金というのがあります。

【市長】いろいろな文化施設をまとめたら出ますというのがあって例えば芭蕉記念館と何とかをここにまとめてつくりますというのとどれぐらいでしたか。

【美術博物館建設準備室長】最大10億円、最大ということですので国の予算の範囲内となりますので、どれだけもらえるのか、本当にももらえるのかということもありますが、他の部分についても多少なり補助がもらえるものもありますのでそういったものを探していきながら検討していくこととしています。

【市長】図書館を上野で今の赤門のところに初めて作った時に、どうやって図書の充実を図ったかという、当時の町民から一冊ずつ寄贈してもらって、今でも裏のところに寄贈者は誰といたことが書いてある本が残っているのですが、市民がその気になってやっていくことが大事であると思いますし、最近はクラウドファンディングというのがあって、そういったことをいろいろ考えてやっていくことになります。

【副市長】芭蕉記念館を改築するというので基金を積んであります。それが7億ぐらいあります。基金と補助金と一般財源、あるいは起債という形で考えています。

【中委員】市民の思いというか、みんなに参加してもらうことが大事だと思います。できるだけ素敵な美術博物館になるように、これから伊賀市を背負っていく子どもたちのためにつくってもらえたらと思います。老若男女を問わず、みんながずっと行けるような美術博物館を目指してほしいと思います。

【事務局】ありがとうございます。それでは3つ目の項目、「小中学校における手話授業について」教育委員会事務局学校教育課から説明をお願いします。

【学校教育課長】 資料に基づいて説明

【事務局】ありがとうございました。小学校における手話授業について、皆様からご質問やご意見等ございましたらお願いします。

【市長】何学期に取り組みましたということは、それでおしまいになってしまうのかということと、もっと言えばこういうことを勉強したい、続けたいと思う子どもたちにとってはどういったフォローアップがあるのかということはどうなのですか。

【学校教育課長】いろいろな人権にかかる学習とか福祉にかかる学習をしていく中の一環として手話言語についても学習をしています。当然他の問題についても学習をする中で以前に学習したことを思い出したりすることもありますし、毎年違う学年の子どもが学習をすることでど

の学年も漏れなくみんなが学習できるようにしたいと思っています。社会福祉協議会と連携をさせていただいていますので、もし、もっと深く学びたいということであれば社協ともさらに連携を深めながら、手話サークルであるとか手話の勉強ができるところへつないでいくことなどを考えています。

【市長】人権課題であるというのはもちろんありますが、自らを表現するための重要な手段であることであって、我々が言葉を喋るように手話を通じて表現することも私たちが習得すべき言語のひとつだと思います。そうすることによって自らの可能性を従前に増して広げていくことができる、教育は自らそれぞれの子どもたちが可能性を広げていくことにあると思うので、そういうツールの一つとして、継続的、そして完成に向けて続けることが必要だと思います。人権問題では人権課題があるけれどもそれは一つのアспектであって、自らの可能性を今後も広げるためのツールであるという認識を持つ必要があると思うところです。

【教育長】課長と一緒に久米小学校に行ってきました。久米小学校の地元の方で手話ができる方がおられて、プリントを見ながら、例えば枕を外したら「おはよう」ですとかを教えてもらいながらあいさつも教えてもらい、2回目はそれを使えるようになって、次にそれを自分たちの歌に合わせて使えるように、さらにはヒューマンフェスタで他の人たちにも見てもらうということで、1回きりではなく、会話として成立していくようにその機会を通じてやっていこうと久米小学校で取り組んでいますので、それが会話として少しでもあいさつができるとか、使っていけるようになればいいと思っています。ただ、細かいことを言うと難しいので、その方も歌に合わせてでも大筋の手話はしているけれども、細かいことについてはまた勉強してもらったらいいのでということで、基本的なところで手話を教えてもらっているのが現状でした。

【市長】よそで類似のことをやっている学校はどのようなことをやっているのか、先進事例も聞かせていただけたらいいと思います。

【教育長】手話は他の学校でももっとやっているところもあると思いますので、今年いろいろ集めて広めていきながらしていきたいと思っています。

【市長】なぜ手話をするのかという意味とどういうふうに行っているのかというところを、他の学校では認識されていると思います。

【岡森委員】手話というのは世界共通の言語なのですか。

【市長】言語なのですが、日本でも手話は言語といって手話言語条例がありますが少し違う日本語になるのではと思います。世界共通かと言語体系が違いますからばらばらですけれども、韓国では70%日本の手話が通じて、台湾は戦後中国語の手話に置き替えていったので3割ぐらいです。

【岡森委員】その国その国の手話があるということですね。

【教育長】今後、実際にやりながら広げていきたいと思っています。

【事務局】ありがとうございます。それでは4つ目の項目「小中学校における読書活動の推進について」を学校教育課から説明をお願いします。

【学校教育課長】 資料に基づいて説明

【事務局】ありがとうございました。小中学校における読書活動の推進について、皆様からご質問やご意見等ございましたらお願いします。

【岡森委員】地元に戻ってきまして30年ぐらい仕事をしているのですが、20年ぐらい前から夏休みの読書感想文を書いても書かなくてもいいことが出てきた時にえーと実は思いました。今また改めて、なぜ読書、読書ということになってきたか、なぜ今子どもたちに読書と言ってくるのかお伺いしたいと思います。

【学校教育課長】読書をすることによって、当然子どもたちの豊かな心情が育まれることはもちろんですが、学力の向上におきましても中身を読み取ってそのことからそれをまとめたり、友だちに伝えたりする力が特に国語力の場面で必要となってきます。そういったことが読書を通じて広げられるということで国でも力を入れて取り組みを進めているところです。

【教育長】国語の教科書を見ていただくと一番後ろのページに「この本を読みましょう」と非常に多くの本が書かれていて、だいたいその本が図書室や学級文庫にあります。どうしてかという、子どもたちがこれから生活していく上で、本を読んでいろいろなことを考えていくには読解力が必要になるからで、学力学習状況調査でもただ単に知識だけではなく、非常に長い文章がテストに出てきます。問題は非常に簡単なのですが読んで考えないといけないので、読解力をつけていかないと読むのに時間がかかってしまいます。算数も問題は簡単ですが文章題は読めないと結局は解けない問題があるので、読解力をつけていくことがこれからは大事ですよというのが国の流れなので、その読解力をつけるためには、学校の教科もそうですが読書活動に力を入れましょうという流れがあってもう1回読書に戻ってきたということです。ところが読書といっても学校の中で国語の時間に週当たり1時間は図書室に行きましょうというのがありますが、1時間確保できないので自分で行ってくださいとなるとだんだん行かなくなります。そうすると家庭に読書の時間を求めることとなります。学校であれば朝の10分間だけ読書をしましょうということもありますが、それだけでは足りなくて、家庭に呼び掛けてもできないので、もうちょっと学校の中で読書をさせていかないと読解力をつけることができないということで、読書をするによって学力を向上しましょうということになってきています。

【岡森委員】読書が学力向上につながる一番原始的なツールだということを再認識していただいたことは日々関わっている者として本当に有難いと思います。最近、上野高校の普通科が学際探求科に替わるということで、基礎学力がきちんとついていない子どもたちにそういうことをさせた時にどうなんだろうかと、OBの方から少し心配の声として上がっています。それが小学校、中学校の時に本を読んでいない、読書感想文を書いても書かなくてもいいという状況であれば、おそらく夏休みに読まない、そうなると思わない、自由研究も自由であればもちろんしない、そうなると思わない、小学校と中学校からの積み重ねがないまま、いきなり高校で厳しいのではないかという話を受けまして、伊賀市の中で小中完結して子どもたちが近いところで通って勉強できる環境をつつていただくにあたっては、職場体験に来てく

ださる中学校の生徒さんでもちょっとしたポップが本当に書けなかったりとか、「今まで本読んだことある?」「いやない」、「読書感想文を書いたことある?」「書ききったことはない」そういうお話を聞いていると心が折れそうになります。なので、小学校低学年の時から少しずつ少しずつ、府中の林先生の話もさせていくことがあります。林先生の思いは、子どもたちのことを思って読書推進学校としてすごく一生懸命してくださっていることはよくわかっていて、今後伊賀全土にそういう取り組みが広まっていればいいと思います。中学校の子どもさんにお話をしに行ったときに「どうやったら本が好きになれますか」と質問を受けた時があって、例えば自分が好きなアーティストさんがこの本面白いよと思ったら絶対読むでしょう、読みたくなるでしょう、そういったことだと思うのですよね、府中小学校でも、みんながそれぞれ1冊にポップを書いている。あれはやっぱり誰誰さんが推薦している本だから私も読みたくなるという間口が広がると先生が言っていたいて、うちの店でもそういうことを生徒さんたちにも書いてもらって、買いに来てくれたお子さんたちが、この子が推薦しているのであれば読んでみようかなという、そういった広がりになってきていると思うので、是非図書館の本であってもそういう流れをつけていただければと思います。子どもたちは実際、本は好きだと思うのですが、なかなか家庭に帰ると本屋さんに行く機会があまりないのか、お客さんたちの行動で、こんな本は持っているとお母さんに言われてピシャとシャットアウトされるとかを見ていると、本当は好きなんだけれどもどっかで折れてしまうこともあると思いますので、学校の中ではのびのびと読書に触れていただく機会をこれからも持っていれば良いと思います。

【野口委員】読書を推進する中で、読書が苦手な子どもは、読む速度が非常に遅いと思います。読書も結局訓練だと思いますが、斜め読みとか一冊読み終わるのにすごく苦労する子どもは読書が進んでいかないと思いますので、読書の仕方とか、こう読んでいくんだよとかいった教える場というのは無いのかと思ったりしています。一冊「これ読み」と言って渡して読み終わるまでものすごい時間がかかる子はかかるので、その辺で何か取り組みは無いのか思っています。

【中委員】英検から言いますと3級には英作があります。その時に「コンビニについてあなたは どう思いますか」となった時に「いいと思います」「悪いと思います」「必要ないと思います」、その次に2つぐらい自分の思いとして、その理由を書かないといけないのですが、その2つの理由が浮かばない、やっぱり本を読んでいる子どもはいろいろな文章が頭に入っているのでもいろいろな表現ができる、だけど本を読んでいる子どもは、どうしているのか、いらぬのか、まったく文章が浮かばない、そういった状態がたくさん子どもの中に残っていると思います。準2級になっても英検の中には英作があって、大学入試でも英作があります。そんな時には、イメージがあってこそ英文が書けるのですが、日本語的な映像も浮かばないので英文も書けないというところがあって、読む力、書く力、理解する力、なによりも小さい子どもたちには、さあ読みなさいと言っても読めるものではないので、読み聞かせをたくさん増やしてもらって、こんなものがあるんだ、もっと読みたいな、これはどうなっているのだろう、といったワクワクするような感覚を最初に子どもたちに味わってもらうことが、家庭で読み聞かせをして

いただいている親御さんもいると思いますが、それはごく僅かであって、子どもたちが読みたいと思う興味、ワクワクする感覚、発見というのがあれば、どんどん読むのではないかと思います。家庭の蔵書が0から10冊といった話を聞いてびっくりしました。私自身は生まれた時から読み聞かせをして、3人の子どもたちに子どもたちの本を作ったりしましたが、自分自身があまり読まなかったのでどうしてそういうことをしたかわかりませんが、そういうことをすると読もうかという気持ちがあふれる、いろいろな本を読みたい、そういったきっかけが大事だと思うので子どもたちにきっかけを与えてあげてほしいと思います。

【教育長】小学校に入るまでに読み聞かせがあつて、家に本があつてというのがいいのですが、なかなか難しいので、それを家庭に求めてもすべての子どもたちにそういうことができないので、学校の中でそういったきっかけを小学校からでも与えていく必要があると思います。子どもたちに少しでも近くに本がある環境を学校の中にしていこうと、府中小の例もあつて進んだこともあります。家で読む時間が増えたかということとあまり多くなっていません。学校の図書館に行くのは増えました、学校で本を読むのは増えました、では家ではということとそんなに変わらない、家で求めるのは非常に難しいのが府中小の結果でした。

【中委員】学校の中で子どもたちが触れるところに本がある環境、そこからだと思います。

【内藤委員】読書ボランティアの方が小学校に17人、中学校に8人が入っていただいています。司書さんはいない。この度こういう活動の取り組みをしていただいている学校が今のところ3校、これからずっとモデル校は拡大されていくのでしょうか。

【学校教育課長】県の補助金がついているので行っているのですが、その補助金が無くなっても市としてやっていきたいのが一つと、司書を学校に一人ずつというのは難しいですが何とか巡回でもつけるようにしていきたいと思っています。司書が例えば週に1回、2週間に1回でも回ってもらったら、図書館の整備と子どもたちへの働き掛けもしてもらえるではと思って、まずは司書を配置する方向でなんとか考えています。

【内藤委員】県の補助金は何年までついているのですか。

【学校教育課長】年度ごとの補助金なので何年度までというのがありません。実際には県にいくらかと決まっているものを必要だと手を挙げた市で割っています。今年、青山に付けられたのは昨年より希望する市が少なかったのでたくさんもらったのですが、いつまでもらえるかはわかりません。

【内藤委員】今、していただいている活動は、司書を置いたときにはこういういい効果がありますというのを県の予算で実践していただいて、いい結果が生まれてきているので市としても全校に司書を1名ずつ置いていただくべきであるという、そういう結果が生み出されているということですね。そういうことだということです。今、ずっといかに読書が大事か、教育の現場、できれば幼少期からできるだけ早い時期にそういう習慣をつけるということが、後々の学力や情操の教育においても、いかに大事かというお話を十分皆さんにさせていただいたところで、何が必要かというこれが必要、そういう話です。よろしくお願ひします。

【教育長】県も学校図書館司書がついていないところを指定してきたので、伊賀市が当たったのですが、報告書が難題なので他の市町は手を上げないのです。それを伊賀市がもらって、今

年3校になったわけですから。いずれ司書を置いていくしかないと思います。そういうふうにしていかないと、学校の本の整理もありますし、子どもたちの指導もありますし、そういった面も含めたら学校図書館司書を置くことが必要と思っています。

【事務局】よろしいでしょうか。それでは、協議事項については終了させていただき、報告事項に移らせていただきます。報告事項の1 伊賀市教育大綱の策定について、教育総務課から説明をお願いします。

【教育総務課長】 資料に基づいて説明

【事務局】ありがとうございました。教育大綱の策定について、皆様から何かご質問がございましたらお願いします。

(質問等なし)

【事務局】続いて、報告事項の2 伊賀市子育て支援について、学校教育課から説明をお願いします。

【学校教育課長】 資料に基づいて説明

【事務局】ありがとうございました。子育て支援について、よろしいでしょうか。

(質問等なし)

【事務局】引き続き、報告事項の3 不登校児童生徒の状況について、学校教育課から説明をお願いします。

【学校教育課長】 資料に基づいて説明

【事務局】ありがとうございました。全般を通して、本日の協議事項も含めて、改めて何か質問やご提案等がございましたらお願いいたします。

ご質問やご提案等はよろしいでしょうか。

(質問等なし)

【事務局】それでは最後にその他の事項として皆さま方から何かございますか。無ければ事務局からも特にございませぬので、これを持ちまして第1回伊賀市総合教育会議を終了とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。

(11時55分終了)